

多治見の川～大原川を語る～

大原川は旭ヶ丘10丁目を源にして南流し、土岐川に合流する川です。かつては段川、あるいは段子川と呼ばれていました。中流の団子橋から土岐川の合流地点にかけての川筋がはげしく屈折し、しかも河床面積が狭かったため、大雨のときはたびたび氾濫して、周辺の村々に大きな被害を与えていました。昭和18年から大規模な改修工事が行われ、現在のような川になり、氾濫の被害はなくなりました。



大念仏

江戸時代、大雨で大原川が氾濫し、その夏にはチフスが発生して村中に広がり大原村では死者60人以上に及んだ。再びこのようなことのないよう悪病を払うことを願って村人は辻々をめぐりはじめたのが「大念仏」のはじまりで、現在も子どもたちが大提灯をもち太鼓や鐘を鳴らしながら「なんまいだー」と唱えながら街中を練り歩いている。

支流の川名

豆田川、大波佐川、大沢川、根本川など、支流の川には今は使われなくなった古い地名が付けられている。

集団移住した野中村

その昔、野中村は現在の多治見ICのあたりにあった。しかし、大原川が頻りに氾濫して、被害が甚だしいため、村は対岸(現在の宝町あたり)へ集団移住した。そのときに県神社だけはそのまま残したので、移住した村の中心に常夜灯を立て、県神社の遥拝所としたといわれる。

昔話の残る支流

大原川の支流・大沢川は小泉町から大原町へのびる川で、川沿いには六部塚・水弘法・歯ごき様などの様々な昔話が残されている。

団子橋

多治見から木曾川野市場湊(可児郡今渡)への道・今渡街道にある橋。橋の名は大原川の別名・段子川に由来するとも、橋のたもとに団子屋があったためともいわれる。

大原川の改修

土岐川合流地点から団子橋あたりまでは屈曲のある川だったが、昭和18年(1943)から改修工事が行なわれ、今のようなまっすぐな川筋となった。

郷土のことについて調べるなら

郷土資料室へ

地元に関する資料や市民の皆様から寄せられた文書や記録などを整理し保管しています。保管資料は利用者の方の調べ学習・研究などにもご利用頂けます。

地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までお問合せ下さい。市民の皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供も募集しております。

多治見市図書館郷土資料室

【場所】 多治見市豊岡町1-55 ヤマカまなびパーク4階 JR多治見駅より徒歩5分

【電話】 0572-23-3783

【開室時間】火～土曜日 10時～17時(日・月・祝日・年末年始は休室) ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください